女性同窓生エッセイ一期一会
第 9 回 山浦成子さん（63 期）

私が関東同窓会にかかわるようになったのは、先輩で 58 期の寺嶋さん（残念ながらお亡くなりになりました）からお誘いを受けて役員の会計担当になったことからでした。多分 2002 年のことです。会計担当とは名ばかりで、相方の Y さんに対応は任せっきりで人数合わせの枯れ木状態でした。それでも何期か属していたのは集まってくる人たちが個性的で面白かったからです。年を重ねたそれぞれの人の歴史がかいま見れてけっこう楽しんでいました。同窓会は人と会うことが楽しい、それに尽きます。人脈をこれから生かしていく年代はもう過ぎてしまったので、生きていることを確かめ合う場所かな。

私は 63 期で、共学になってから 10 年以上経っていたのに、まだ女性は 20 名ほどでした。クラスには 6 名。女性が珍しい存在でいつも見られているという緊張感がありました。トイレも遠くて、更衣室は狭くて汚くて、隣の部室との間には小さな穴があって着替えを覗かれているという噂がささやかれていましたが、事実はどうだったのでしょう。

あんなに男子に囲まれていたのに胸キュンの思い出もなく、男性が多くても動じない度胸がついただけでした。それなのに、夫が上田高校の同級生とは、人生は何が起きるかわかりませんね。

子供を 3 人産んでから 10 年間は、両親もなく見知らぬ土地でのワンオペの育児で記憶がないくらいでした。その後何かしたいと思ったときに出会ったのが地域でのボランティア活動でした。障害のある人や生きづらさを抱える人たちの、新しい価値観や見知らぬ世界を知るたびにのめりこんでいきました。多くの偏見や差別の存在に出会うたびに新しい目が開かれる思いで、支援できることが喜びでもありました。もう体力を使う活動はできませんが、地域でのキーパーソンと自負して日々活動しています。